

## 2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	蘇生と救急処置		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	302
担 当 教 員	加藤 智久 ほか	実務経験と その関連資格	加藤智久:病院勤務9年 呼吸療法認定士 臨床工学技士国家試験取得			
《授業科目における学習内容》						
臨床の場で実施される蘇生法と救急措置を学ぶ。 リハビリテーション実施時のリスク管理(患者の状態評価、感染リスク)を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(90点)と実技試験(10点)の合計100点で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書、資料を見直し、要点と手技を繰り返し復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
患者の状態把握やリスク管理は非常に重要であり、必要な手技を正確に覚えること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	応急手当の重要性について説明できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	救命に必要な基礎知識			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系や呼吸器系、脳・神経系のついて説明できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	基礎医学			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	成人に対する心配蘇生法について実践できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	応急処置に必要な応急手当の基礎と実技			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	小児・乳児に対する心肺蘇生法・AEDの使用方法について実施できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	救急処置に必要な応急手当の基礎と実技			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	気道異物除去、止血法について実施できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。	
		各コマにおける授業予定	気道異物除去や止血法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	傷病者の管理法・外傷の手当・搬送法を実施できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	その他の応急手当		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法に関する一連の流れを実施できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	心肺蘇生法に関する知識の確認と実技の評価		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	理学療法と救急現場について説明できる	配布資料、救命講習のシミュレーター	配布資料を読み予習する。授業内容をまとめ復習する。
		各コマにおける授業予定	理学療法と救急現場(災害リハビリテーションについて)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	普通救命講習を修了すること	教科書、救命講習のシミュレーター	
		各コマにおける授業予定	普通救命講習		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	普通救命講習を修了すること	教科書、救命講習のシミュレーター	
		各コマにおける授業予定	普通救命講習		